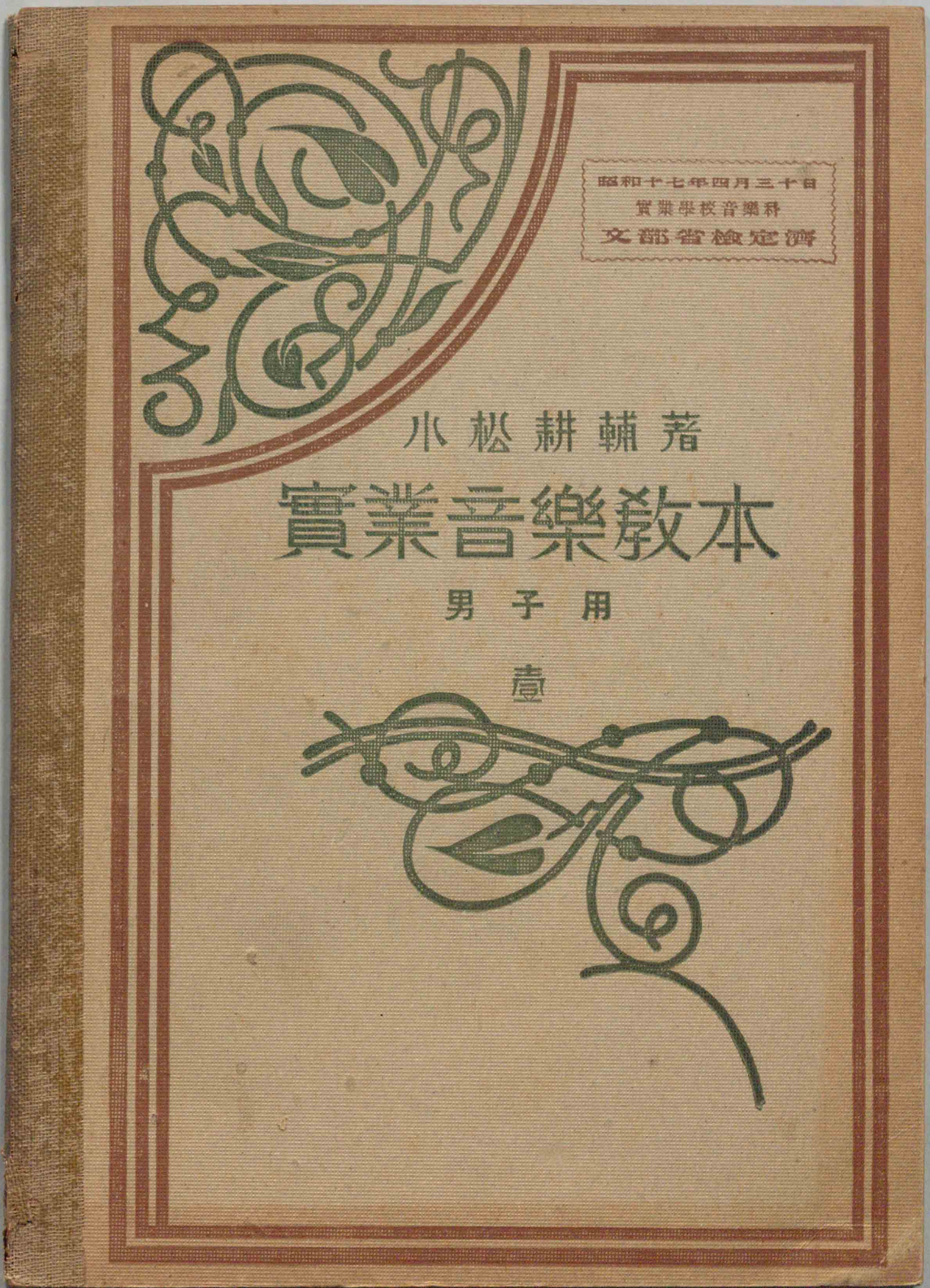
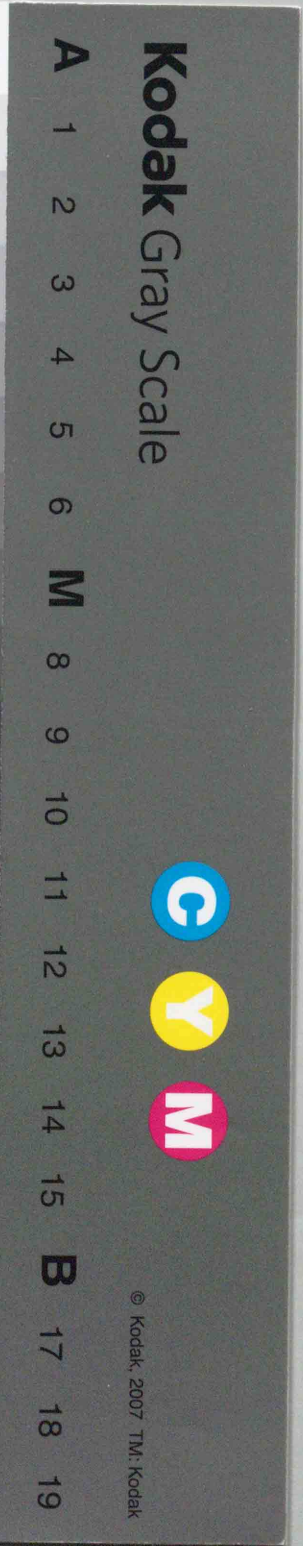
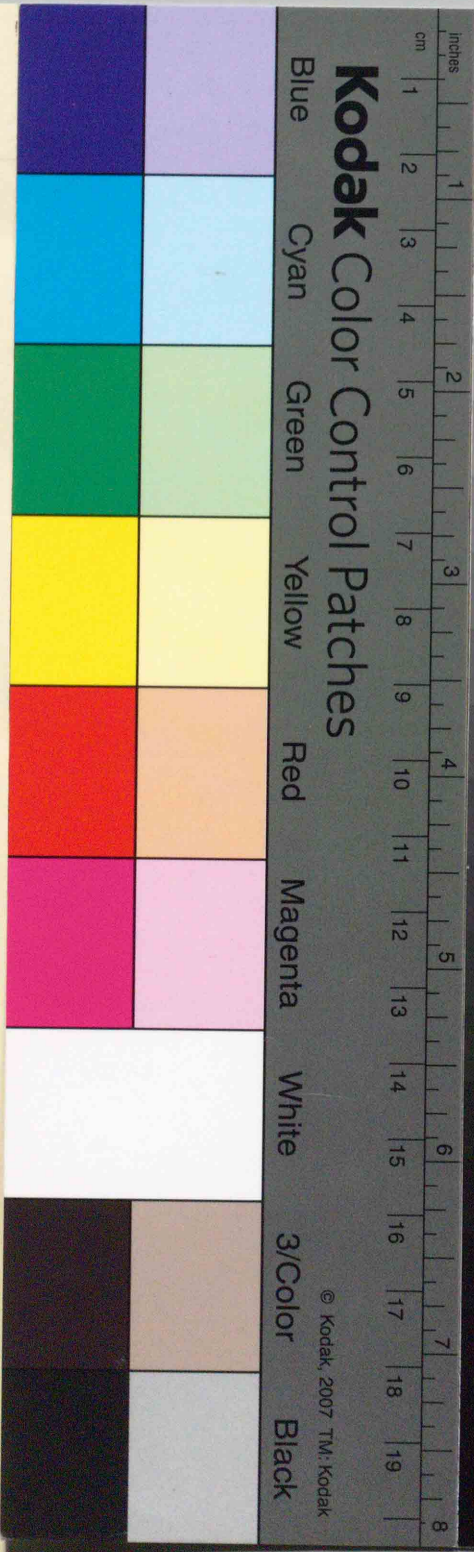


41042

教科書文庫

4
760
44-1942
06304 49435



中央図書館



小松耕輔著

實業音楽教本

男子用

壹



広島大学図書

0130449435



## 緒 言

- 一、本書は實業學校音樂科の新教授要目に準據して編纂したものである。
- 二、本書に集録した樂曲は、著者署名以外のものは皆各國の作曲者によつて作られたものである。
- 三、歌詞に署名なきものは著者自身の作にかゝるものである。
- 四、歌曲は二十一篇を收めてゐるが、教授の都合上、幾分これを加除し、他の曲を採録する場合を慮り、卷末に五線紙を添へて其の用に供した。
- 五、樂典は其の初歩を授け、音程練習は階梯的に編纂して卷末に添へた。

昭和十七年二月

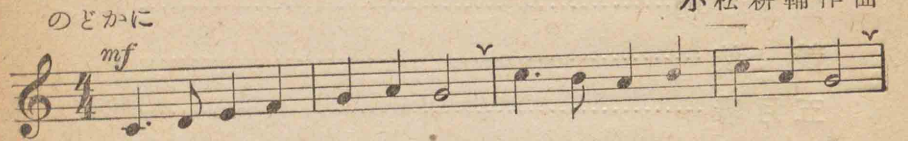
著 者

## 目 次

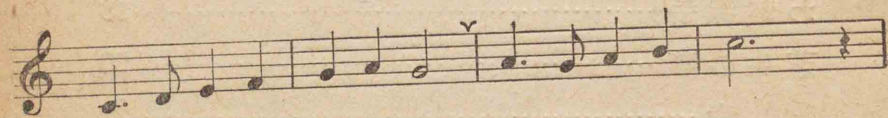
わが春	4
森の囀り	6
漁村の朝	8
競 技	10
五月晴	12
いざ事あらば	14
三笠艦	16
わが選手	18
芝生の堇	20
牧 童	22
母 校	24
汽車の旅	26
蟲なく野邊	28
落ちゆく日	30
豊太閤	32
秋晴の野山	34
秋の山	36
探 梅	38
兎がり	40
櫓遊び	42
氷すべり	44

わ が 春

小松耕輔作曲



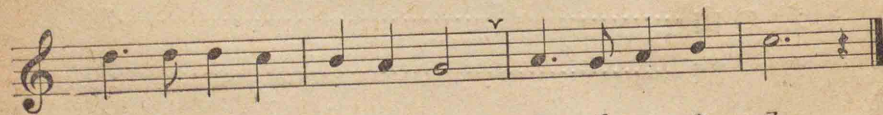
1. ミワタス カギリ ノヤマヲ コメテ  
2. よろこび あふれ みるものすべて



カスミゾ カカル ケフノハル  
うたふに にたり けふのはる



モノミナ エミテ モノミナ ヲドル  
ふみよむ まどに ゆたけさ ひかげ



タノシキ ハルヨ ワガハルヨ  
おのしきはるよ わがはるよ

見わたすかぎり 野山をこめて、  
霞ぞかゝる 今日の春。  
物みな 笑みて  
物みな をどる  
樂しき春よ、 我が春よ。  
よろこびあふれ 見る物すべて、  
歌ふに似たり 今日の春。  
文よむ 窓に  
豊たけき 日かげ  
樂しき春よ、 我が春よ。

わ が 春

葛 原

幽

# 森の囀り

楽しく  
mf

小松耕輔作曲



1. タ カ ク ヒ ク ク サ ヘ ヅ リ  
2. あ さ ひ う け て さ ヘ ヅ リ



ト ホ ク チ カ ク サ ヘ ヅ ル  
ゆ ふ ひ あ び て さ ヘ ヅ る



モ リ ニ ミ ツ ル コ エ ゴ エ  
は る の な が き ひ と ひ を



ト リ ノ ウ タ ゴ オ モ シ ロ  
も り に う た ふ こ と も よ

朝日うけてさへづり、  
夕日あびてさへづる。

春の長きひと日を、  
森にうたふ小鳥よ。

=

鳥のうたぞおもしろ  
森にみつる聲々、

高く低くさへづり、  
遠く近くさへづる。

—

森の囀り

葛原

函

# 漁村の朝

のどかに  
*mf*

1. ア サ モ ヤ ハー ハ レ ワ タ リー  
2. あ さ も や はー は れ わ た りー

ウ ミ ホ ガ ラ ホ ガ ラ  
う み ほ が ら ほ が ら

*p*

{ ミ サ キ ヲ メ グ リ ア サ ヒ ヲ ア ビ テ  
{ エ モ ノ ヲ ツ ミ テ サ キ ヲ バ キ ソ ヒ  
{ な ぎ さ に つ ど ひ る あ さ ひ を あ び て  
{ え も の を い る あ ま た の か ご を

*mf*

{ ヨ ズ リ ノ ヲ ブ ネ ノ カ ヘ ル  
{ エ ガ ホ ヲ ナ ラ ベ テ カ カ ヘ ル  
{ ま つ ま も た の し き こ ら よ  
{ て に て に ぶ が ほ の こ ら よ

# 漁村の朝

葛原 幽

朝靄は霽れわたり 海ほがらほがら。  
 岬を巡り朝日を浴びて、夜釣の小舟のかへる。  
 獲物を積みて先をばきそひ 笑顔をならべてかへる。  
 渚につどひ朝日を浴びて、待つ間も楽しき子等よ。  
 獲物を入れる、数多の籠を 手に手に笑顔の子等よ。

# 競 技

小松耕輔作曲

勇ましく

*mf*



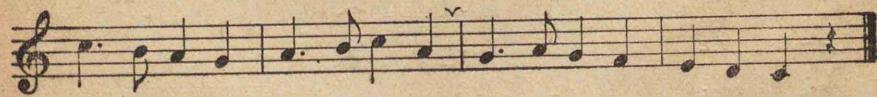
1. オホゾラ ハーレーヲ フクカゼ カーラーヲ  
 2. あるひは うなーり だいちを かーすーめ



ココロモ ハズミテ テアシハ フドル  
 あるひは おほぞら とびゆく まりよ



ヒトツノ マーリーヲ オヒユク ハーヤーサ  
 かてよや かてーと さけぶよ よーぶーよ



ミルサヘ タノシク イサマシ キ+ウギ  
 さうぎは たけな はち はわさをどる

競	勝	あ	あ	心	大	
技	て	る	る	も	空	
は	よ	ひ	ひ	は	晴	競
酣	や	は	は	は	れ	技
	勝	大	唸	み	て	
血	て	空	り	一	つ	
は	と	と	大	の	毬	
湧	と	び	地	を	を	
き	叫	ゆ	を	し	く	
跳	ぶ	く	か	く	追	
る	よ	か	す	手	ひ	
	呼	す	め	足	ゆ	
	ぶ	め		は	く	
	よ			跳	る	
				る		
				速		
				さ		
				競		
				技		

葛 原 鹵

# 五月晴

楽しく



1. サツキーノカゼーフーケバエ  
2. さつきのかぜーふーけばみ



ダモハモノビテノヤマー  
そらーたーかーくなくひばりー



ノクサーモキモサカエーサーカーエツ  
のなめーらーけきうたーのーなーがーれき



ツミチタルヨロコビアフルルホ  
てむぎふのこひばりののすにめ



ホエミサツキバレノタノシーヤ  
びめてさつきはれのたのしーや

五月晴の樂しや。

五月の風吹けば、  
雲雀のなめらけき、  
御空高く啼く、  
野の歌の流れ来て、  
野の巢に目ざめて、

五月晴の樂しや。

五月の風吹けば、  
野山の草も木も榮え榮えつゝ、  
満ちたる悦び、  
溢るゝ微笑、  
枝も葉も伸びて、

五月晴

葛原 函



いざ事あらば

いさましく *mf*



1. タカラカニコソ ラッパアネシ ヅケサヤブリ  
2. はれわたりたる みそらも いつしかくもる



ヒピカバ イ サヨヲタタン ワレラゾ イ  
ひのあり こころゆるすな あげくれ あ



ザコトア ラン ソノヒハ ヒゴロネリニ  
めふりか ぜも おそはん いざことある



ネヲタル チカラミ セン トキナリ ウ  
そのひは さきをきそひ たちなん せ



*mf*  
デヲフル ハン トキナリ イ サミテタタン ワレラゾ  
いぎのはたを かざして やまこえのこえ すすまん

いざ事あらば

葛原 幽

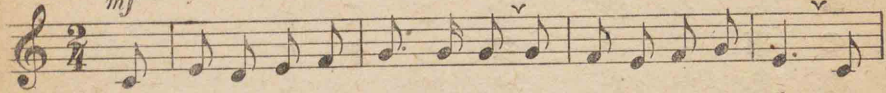
一  
高らかにこそ喇叭の音、  
静けさ破り響かば、  
勇みて起たん我等ぞ  
いざ事あらん其の日は。  
日ごろ練りに練りたる  
力見せん時なり、  
腕を揮はん時なり、  
勇みて起たん我等ぞ。

二  
晴れ渡りたる御空も  
いつしか曇る日のあり。  
心ゆるすな明暮、  
雨降り風もおそはん。  
いざ事ある其の日は  
先をきそひ起ちなん。  
正義の旗をかざして、  
山越え野越え進まん。

三 笠 艦

輕快に

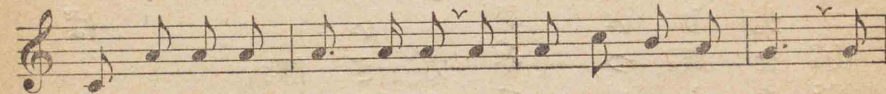
mf



1. ヨ ル ナ ミ シ ヅ ケ キ ウ ミ ノ ホ ト リ シ  
2. ま し ろ に く だ け て な み は た て ど お



ラ ハ マ ノ イ ソ ニ タ テ ル ミ カ サ ク  
ほ ぞ ら に く も も な き ひ な り き ま



ウ コ ク ノ コウ ハ イ コ ノ イ ツ キョ ト シ  
ち か ね し て き の だ い か ん た い げ



ン ゴ ウ ノ ボ リ シ マ ス ト ハ コ レ ト  
き め つ し た り し そ の い さ を し せ



ウ ガ ウ テ イ ト ク テ キ フ ニ ラ ミ ム  
か い に ほ こ り の ひ の み は た の ひ



ゴ ン ニ タ チ タ ル デ ツ キ ハ コ レ  
か り を ま し た る そ の い さ を し

三 笠 艦

葛 原 函

寄る波静けき海のほとり、

皇國の興廢此の一擧と、

東郷提督敵をにらみ、

白濱の磯に立てる三笠。

信號上りしマストはこれ。

無言に立ちたるデッキはこれ。

エ

眞白に碎けて波は立てど、

待ちかねし敵の大艦隊

大空に雲も無き日なりき。

撃滅したりしその勳功。

世界にほこりの旭の御旗の

光をましたるその勳功。

# わが選手

愉快に

1. ハレタル ソラニ ヒハモエテ  
 2. こころも をどる がくのねに

アヲバノ カゲ カゼ カヲル  
 ゆらめく はた はなのごと

イザワガ センシュ トキハキヌ  
 いざわが せんしゆ ふるひたち

ヒゴロノ ウデヲバ ウチフルヒ  
 ゆづるを はなれし やのごとく

ムラガル テキーヲバ ケチラシーテ  
 ゴオルを めがけて とくはしーれ

ホマレノ ハ タ カチトレヨ  
 かがやく は え さみをよぶ

# わが選手

一 晴れたるそらに 日はもえて、  
 青葉のかけ 風かをる。  
 いざわが選手 時は来ぬ、  
 ひごろの腕をば うちふるひ、  
 むらがる敵をば けちらして、  
 ほまれの旗 かちとれよ、  
 二 心もをどる 樂の音に、  
 ゆらめく旗 花のごと、  
 いざわが選手 ふるひたち、  
 ゆづるをはなれし 矢のごとく、  
 ゴオルをめぐけて とく走れ、  
 かぎやく榮 君をよぶ。

麻上俊延

芝生の 堇

優美に *mf*

1. シ バ フ ノ ス ミ レ ナ ッ カ  
2. し ば む の す み れ な つ か

シ ア ア ナ ッ カ シ ム  
し ああ な つ か し ゆ

ラ サ キ フ カ ク ツ ユ ニ ソ ミ テ  
ふ べ の ほ しの ほ ほ ぶ む ま で

ニ ホ フ サ マ ノ ユ カ シ ヤ  
い び や こ こ へ あ そ ば ん

芝 生 の 堇

芝生のすみれ、 なつかし、

ああ なつかし。

紫ふかく、 つゆにそみて、

にほふさまのゆかしや。

二

芝生のすみれ、 なつかし、

ああ なつかし。

ゆふべの星の、 ほほるむまで、

いざやここに遊ばん。

# 牧 童

楽しく *p*

1. イ リ ヒ ノ カ ー ゲ ア カ ク サ ー シ  
2. す ず し き ふ ー え の に ひ び ー ヌ

*mf*

ノ モ セ ハ ハ ー ヤ ク レ ツ メ ー ス  
み よ や ら し ー は あ つ ま り ー ぬ

サ ー ラ バ イ ヘ ー ニ ワ レ モ ユ カ ン  
ゆ ふ ぎ り ふ か ー き ま き ば を こ え

シ タ シ キ ト ー モ コ ヨ ヤ イ ー ザ  
い へ ぢ さ し ー て か へ り ゆ ー く

# 牧 童

入日のかげ、赤くさし、  
野もせははや、くれそめぬ。  
さらば家に、われもゆかん、  
親しき友、来よやいざ。  
=

すずしき笛、野にひびき、  
見よや牛は、あつまりぬ。  
夕霧ふかき、牧場をこえ、  
家路さして、歸りゆく。

母 校

優美に



1. ア ア ワレニトホキアア  
2. あ あ かどのそとのああ



フルサト ア ア イカニオハス  
やなぎよ あ あ まどにちかき



ワガシワガトモ アア  
もみぢいてふよ ああ



ア ア フルキマナビヤ  
あ あ ふるきまなひや

ああ 紅葉、銀杏よ。  
ああ、古き學び舎。  
ああ門の外かどのそとのああ柳よ。  
ああ窓まどに近ちかき  
ああ我わがに遠とほきああ故郷ふるさと、  
ああ如何いかにおはす、  
我が師、我が友。  
ああ、ああ、古ふるき學まなび舎や。

母 校

葛 原 幽

# 汽車の旅

快活に *mf*

1. ヤ マ ユキ カ ハ サリ ャ ト ハ キ タ ル  
 2. は し り て い こ ひ て ま た も す す じ  
 3. キ ノ フ ハ マ ヲ シ マ ケ フ ハ ウ ヘ ノ

ト ビ ユーク モーリ イヘヒ トモウマ モ  
 す す みー て たー ゆ ま ず つ と め は た す  
 カ ナ ニー テ ター ド リ シ ム カ シ オ モ へ。

*f* *mf*

ユ クワイ ユ クワイ カ ハ ル ケ シ キ  
 ゆ くわい ゆ くわい き し や の た び ぢ  
 ユ クワイ ユ クワイ キ シ ャ ノ タ ビ テ

# 汽車の旅

山<sup>やま</sup>行<sup>ゆ</sup>き河<sup>が</sup>去<sup>き</sup>り里<sup>さと</sup>は來<sup>き</sup>る、

飛<sup>と</sup>びゆ<sup>く</sup>森<sup>もり</sup>、家<sup>いへ</sup>、人<sup>ひと</sup>も馬<sup>うま</sup>も、

愉快<sup>えんかい</sup>愉快<sup>えんかい</sup>變<sup>か</sup>る景<sup>けい</sup>色<sup>しき</sup>。

走<sup>は</sup>りてい<sup>い</sup>こ<sup>ひ</sup>て又<sup>また</sup>も進<sup>すす</sup>む、

愉<sup>えん</sup>快<sup>かい</sup>愉<sup>えん</sup>快<sup>かい</sup>汽<sup>き</sup>車<sup>しや</sup>の旅<sup>たび</sup>路<sup>ぢ</sup>。

愉<sup>えん</sup>快<sup>かい</sup>愉<sup>えん</sup>快<sup>かい</sup>汽<sup>き</sup>車<sup>しや</sup>の旅<sup>たび</sup>路<sup>ぢ</sup>。

昨<sup>きのふ</sup>日<sup>ふ</sup>は松<sup>まつ</sup>島<sup>じま</sup>け<sup>け</sup>ふは上<sup>うへ</sup>野<sup>の</sup>、

徒<sup>か</sup>歩<sup>ち</sup>にて迎<sup>むか</sup>ひし昔<sup>むかし</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>へ、

愉<sup>えん</sup>快<sup>かい</sup>愉<sup>えん</sup>快<sup>かい</sup>汽<sup>き</sup>車<sup>しや</sup>の旅<sup>たび</sup>路<sup>ぢ</sup>。





Andante



1. ヒ ト ハ カ ヘ リ ト リ ハ ユ キ  
 2. こ が ね の く も あ か あ か と  
 3. ヨ ノ モ ノ ミ ナ オ ト モ ナ ク



ノ モ セ ハ シ ヅ カ ニ ク レ ユ ク  
 み よ ひ は に し へ と お ち ゆ く  
 ミ ヨ ヒ ハ シ ヅ カ ニ ク レ ユ ク

落 ち ゆ く 日

一

人 は 歸 り 鳥 は ゆ き、

野 も せ は 静 に く れ ゆ く。

二

黄 金 の 雲 あ か あ か と、

見 よ 日 は 西 へ と 落 ち ゆ く。

三

世 の も の み な 音 も な く、

見 よ 日 は 静 に く れ ゆ く。

豊 太 閣

快活に



1. ア ラレ タ バ シ ル フー ユ ノ ヨー ハー ニ  
2. く が ぢ ろ な ば ら う づ ひ る は た て



ザ ウ リ イ ダ キ ラ ヌー シ ノ カーヘーリ  
こ れ ぞ な だ た る せい かん の いーくーさ



ホ カ ダ ニ ツ ム キー マ タ ル シー モー ベー  
と つ く に ぐ に まー で ひ び く そー のー なー



タ レ カ ハ シ ル ベ キ ロ ウ ネ ノ ホ ウ タ イ カ フ  
ほ ま れ は く ち せ じ た う ね ん の ほ う た い か ん

豊 太 閣

霰<sup>あられ</sup> ば しの 冬<sup>ふゆ</sup> の 夜<sup>よ</sup> 半<sup>はん</sup> に、

草<sup>くさ</sup> 履<sup>り</sup> 抱<sup>だ</sup> きて 主<sup>た</sup> の か へ り、

火<sup>ほ</sup> 影<sup>かげ</sup> に 背<sup>そむ</sup> きて 待<sup>まち</sup> てる 僕<sup>しもべ</sup>、

誰<sup>たれ</sup> か は しの べ き 後<sup>こう</sup> 年<sup>ねん</sup> の 豊<sup>ほう</sup> 太<sup>たい</sup> 閣<sup>かく</sup>。

陸<sup>りく</sup> 路<sup>ろ</sup> 海<sup>かい</sup> 原<sup>げん</sup> 理<sup>り</sup> む る 旗<sup>はた</sup> 手<sup>て</sup>、

こ れ ぞ 名<sup>な</sup> だ た る 征<sup>せい</sup> 韓<sup>かん</sup> の 軍<sup>ぐん</sup>、

外<sup>と</sup> つ 國<sup>くに</sup> 國<sup>くに</sup> ま て ひ び く 其<sup>その</sup> 名<sup>な</sup>、

譽<sup>ほまれ</sup> は 朽<sup>く</sup> ち せ じ 當<sup>たう</sup> 年<sup>ねん</sup> の 豊<sup>ほう</sup> 太<sup>たい</sup> 閣<sup>かく</sup>。

# 秋晴の野山

愉快に



1. オ ホゾラハス ミーターリウラ ラケキヒカグ  
2. お ほぞらはす みーたーりうら らけきひかけ



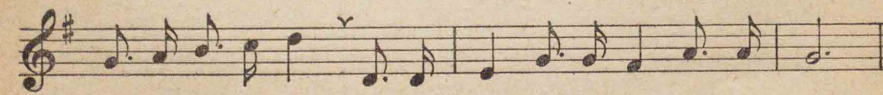
カゼサヘモシ ズーケーキアキ バレノノミチ  
かぜさへもし づーけーきあき ばれのやまぢ



ミワタスノモセ コガネニハエラト  
たかきのにのぼり をちこちみればみ



ピカフイナゴモフトリ タリホオモクユタ  
ねごとたにごとうめて おりいだししにし



ケキミタリ ウラ ラケキヒカグ ニ  
きかもゆる うら らけきひか げ に

風<sup>かぜ</sup> 大<sup>おほ</sup>空<sup>ぞら</sup>

織<sup>お</sup> 高<sup>たか</sup> へも 澄<sup>す</sup> みたり、  
り 高<sup>たか</sup> へも 静<sup>しづ</sup> けき  
出<sup>いだ</sup> し 登<sup>のぼ</sup> り 遠<sup>とほ</sup> 近<sup>ちか</sup> 見<sup>み</sup> れば、  
し し 錦<sup>にしき</sup> か 燃<sup>も</sup> ゆる、

うららけき日<sup>ひ</sup>かげ、  
うららけき日<sup>ひ</sup>かげに。

うららけき日<sup>ひ</sup>かげ、  
うららけき日<sup>ひ</sup>かげに。

二

風<sup>かぜ</sup> 大<sup>おほ</sup>空<sup>ぞら</sup>

垂<sup>た</sup> 見<sup>み</sup> 渡<sup>わた</sup> す野<sup>の</sup> も 豊<sup>ゆた</sup> けき 實<sup>み</sup> のり、  
穂<sup>ほ</sup> 重<sup>おも</sup> く 豊<sup>ゆた</sup> けき 實<sup>み</sup> のり、

うららけき日<sup>ひ</sup>かげ、  
うららけき日<sup>ひ</sup>かげに。

うららけき日<sup>ひ</sup>かげ、  
うららけき日<sup>ひ</sup>かげに。

一

# 秋晴の野山

葛原 幽

# 秋の山



1. アケナスモミヂバウスビニモエテ  
2. ゆふぎりほのかにたにまをこめて



ウカベルシラクモハテナクトホシ  
かぜのねさびしくおらばにうたふ



ムシノネナガレテヒトナキコミチ  
かりがねうちつれとびゆくかなた



チグサモアハレニミダレテサキヌ  
つきかげさやけくひかりをましぬ

秋の山  
麻上俊延

紅なすもみぢば  
うかべる白雲  
薄日にもえて、  
はてなく遠し。  
人なき小徑、  
蟲の音ながれて  
千草もあはれに  
亂れて咲きぬ。

夕霧ほのかに  
谷間をこめて  
落葉にうたふ。  
風之音さびしく  
とびゆく彼方、  
かりがねうちつれ  
光をましぬ。  
月影さやけく

探 梅

Moderato

小松耕輔作曲



1. スミタルーミーソラニカガマクーヒー  
2. かをりもほのかにただよひーきー



ヨコロモーホーガラニタニマユ  
てまだみぬはなにもこころす



クウメノハナヲサグリツツユ  
むらめをたづねたにまゆくら



キマダーノコレルアサキハル  
ぐひすはつねをもらすはる

澄みたる みる 空に 輝く 陽よ、  
こゝろも ほがらに 谿間行く、  
梅の花を探りつつ。  
雪まだ 残れる あさき春。  
かをりも ほのかに 漂ひきて、  
まだみぬ 花にも 心澄む、  
梅をたづね 谿間ゆく。  
うぐひす 初音を もらす春。

探 梅

麻 上 俊 延

兎 が り

勇ましく  
*mf*

1. セ コ ヨ オ ヘ ヤ コ ロ ハー ヨ シ -  
2. ゆ き ふ か く も な に かー あ ら ん

*f*

ア ミ フ マ モ レ ワ ガ トー モ ヨ ア レ  
ち から あ は せ い ざ すー す め あ れ

*mf*

ヨ ア レ ヨ アー レ ヨ フ ド ル ウ サー ギ オー  
よ あ れ よ あー れ よ に ぐ る う さー ぎ おー

*mf*

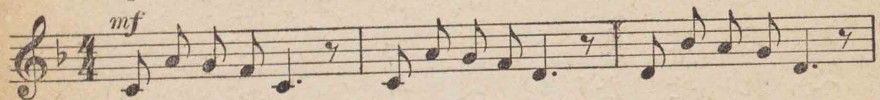
ヨ オー ヨ オー ヨ ヤ セ コ ノ トー モ ヨ  
よ おー よ おー よ や あ み は ちー か し

兎 が り

勢子よ追へやころはよし、  
あみをまもれわがともよ。  
おへよおへよおへよや、  
あれよあれよあれよ、  
雪ふかくもなにかあらん、  
ちからあはせいざすすめ。  
あれよあれよあれよ、  
おへよおへよおへよや、  
逃ぐるうさぎ、  
網はちかし。  
躍るうさぎ、  
勢子の伴よ。

櫓 遊 び

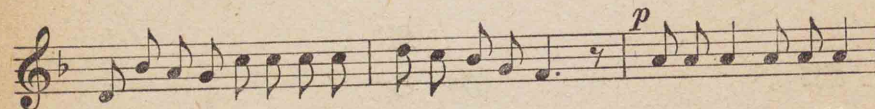
Allegro



1. ユキハフル サラサラト ノニヲカニ  
2. ふりしきる ゆきのなか ひとすぢに



マシロクツム エキノウヘ トブガゴト  
わがそりゆく ゆきくづは なみのごと



ワレラノバツリハ カケリユク ナルヨナルヨ  
らづまきみだれて ぼほをうつ なるよなるよ



ウマノスズ ハオチシハヤシニ コダマシテ  
うまのすず こぼれるみそらに こだまして



ウタヘサケベ ワガトモヨ コエヲバアハセテ ホガラカニ  
はしれそりよ かぜのごと ましろきゆきののはてまでも

櫓 遊 び

麻 上 俊 延

雪は降るさらさらと野に丘に。 眞白く積む雪の上、

飛ぶがごと 我等の馬櫓は 驅けり行く。

鳴るよ鳴るよ馬の鈴、 葉落ちし林にこだまして。

歌へ叫べわが友よ、 聲をば合せてほがらかに。

降りしきる雪のなか、ひと筋に わが櫓行く。 雪くづは

波のごと 渦巻きみだれて 頬をうつ。

鳴るよ鳴るよ馬の鈴、 凍れるみ空にこだまして。

走れ櫓よ風のごと、 ま白き雪野の涯までも。

# 氷 す べ り


(輪 唱)

小松耕輔作曲

楽しく  
mf



1. イ ザ ヤ ト モ ニ タ ラ ト リ  
2. そ ら は は れ て さ は す み  
3. サ ム キ カ ゼ モ モ ノ カ ハ



イ ア ノ コ ホ リ ス ベ ラ ン  
こ ほ り す べ り た の し や  
ハ モ ニ ア ソ ブ タ ノ レ サ

氷 す べ り

いざや共に 手を取り  
池の氷 すべらん。

空は晴れて 氣は澄み、  
氷すべり 樂しや。

寒き風も ものは、  
共にあそぶ 樂しさ。

一  
二  
三



# 樂典

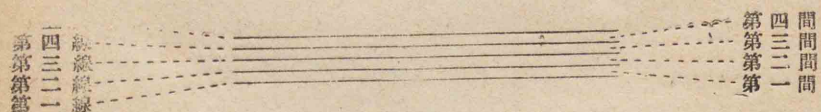
## 樂譜

音樂を可視的に現はすものを樂譜と稱へる。  
 樂譜は音樂の諸要素を出来るだけ正確に記述することを必要とする。先づ樂譜に最も必要なものは音の高低と長短とを現はす方法で、其の高低を現はすものを譜表と稱へる。

## 譜表

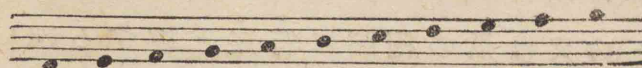
譜表は音の高低を現はすに用ひ、音の歴時の長短を現はすものではない。

譜表は五本の並行横線を用ひ、線と線間とを並用する。即ち次の如くである。



線及び線間の名稱はすべて下方より上方に數へ、線は第一線、第二線等、線間は第一間、第二間等と稱へる。即ち譜表は五線と四間とより成り、これを並用することによつて十一個の異なりたる高

度を現はすことが出来る。



これより尙ほ一層高い音や低い音を現はさんとする時には、必要に応じて五線の上又は下に短線を加へこれを加線と稱へる。

加線並にこれによつて生じた間は五線を中心として、上部のものは上方へ上第一線、上第一間等と稱へ、下部のものは下方へ下第一線、下第一間等と稱へる。



以上の五線四間及び加線並にこれによつて生じた間は凡て下方に至るに従ひ低い音を、上方に至るに従つて高い音を記載する。

## 音符

音の長短を現はすものを音符と稱へる。此音符が譜表の線又は間に記載されることによつて

初めて音の長短、高低を可視的に知ることが出来る。音符は符頭と稱する、白い楕圓のみより成るものと、白又は黒の楕圓に符尾と稱する細い縦線の附いてあるものと、黒い楕圓に鈎を有する符尾の附いてあるものとがある。



符尾に鈎を有する音符は連結して記載することがあるけれども其時價に變りはない。



普通用ひられる音符は次の如くである。



符頭の右側に小黑點を附したものを附點音符といふ。その點は、それが附されたる音符の音長に、その二分の一を更に附加することを意味する。通常用ひる附點音符は次の如くである。



### 休符

音を休むことを現はす記號を休符といひ、音符と夫々相對應する種類がある。次の如くである



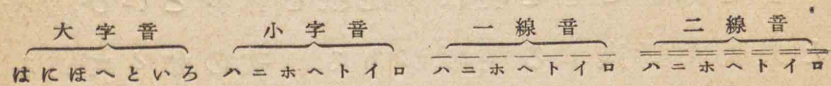
休符の右側に小黑點を附したものを附點休符といひ、音符と同じく、其の休符に更に二分の一の長さを加へたものに等しい。



### 音名

音には一々名稱が附されてをつて、それを音名

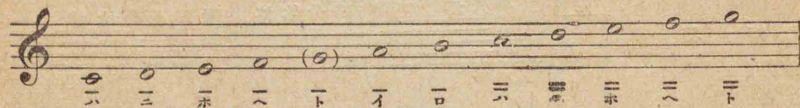
と稱へる。音名は七音を一組として、他の音はそれを繰返して用ひる。我が國に於てはイロハニホヘトの七文字をこれに當てる。而して高さの異なる同名の音は、文字の大小、或は文字の上に短線を附加することによつて區別する。



上述の如き音名の諸音は何れも有鍵樂器の白鍵によつて表はされる音で、これを本位音といふ。

### 音部記號

音部記號は凡て譜表の初めにおいて音の一定の位置を示す。普通唱歌に用ひられるのがト音記號である。



ト音記號は、第二線上の音が一線音であることを示してをる。他の諸音はこれに準じて知ることが出来る。

### 小 節

樂曲は等一な拍數を有する多くの小部分から出來てをる。此小部分を小節と名づける。小節を區別するために、譜表を縦に貫く直線を用ひる。これを縦線と呼び、單縦線、複縦線、の二種がある。單縦線は小節を區別するだけに用ひられるが、複縦線は樂曲の中間にある場合は同じ太さの二本の縦線よりなり、樂曲の一つの段落を示すに用ひ、樂曲の最後にある場合は、二本の中の右方の一本を太く記し樂曲の終結を示すに用ふ。



### 拍 子

樂曲はその進行中、一定の強部と弱部とが交互に現はれる。この強弱の規則的な反復を拍子と呼ぶ。小節は主としてそれを示すためのものである。即ち小節の初めの音符は常に強部で、終り

の音符は弱部である。拍子記號は數字又は記號を以て譜表の首部におかれる。普通用ひられる拍子は次の如くである。

二分の二拍子



四分の二拍子



四分の四拍子



四分の三拍子



八分の三拍子

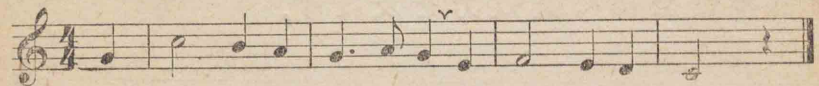


八分の六拍子



未完小節

楽曲には強部から始まるものと弱部から始まるものがある。弱部より始まるものは最初の小節と最終の小節とを合せて完全なる一小節を形成する。かくの如き小節を未完小節と稱へる。



全音と半音

隣り合つてゐる各音間の距離には廣狹の二種類がある。ホとへ及びロとハの二音間は狭くて、これを半音と稱し、その他の二音間の距離は廣くて、これを全音と稱へる。次に示す諸音の中、  
の附されたる場處は半音で、他の二音間はすべて全音である。



嬰、變、本位記號 (變化記號)

本位音を半音上げるためには嬰と稱する#の

記號を用ひ、半音下げるためには變と稱する  $\flat$  の記號を用ひる。又是等の記號によつて變化した音を元の高さにかへす記號  $\natural$  を本位記號と稱へる。是等の記號はすべて音符の左側に附され、其音以下の同小節内の何れの位置にあるを問はず同名の音全部に其效力を及ぼす。

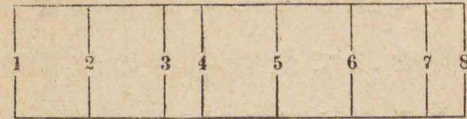


### 音階

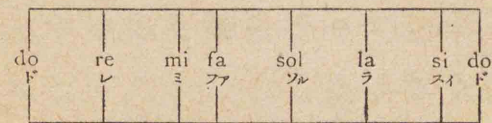
音階とは高き音より低き音に、又低き音より高き音に、規則正しく連続排列された音の系列をいふのである。従つて國により時代により種々の形式の音階がある。現今主として用ひられる音階は長音階、短音階の二種であるが、此處では長音階だけについて述べる。

低き音より數へて第三音と第四音との間、及び

第七音と第八音との間に半音を有し、他はすべて全音より成る、個音の系列を長音階と稱へる。



音階の諸音を歌ふ場合には音名をもつてせずに次の如き階名によつてするのが普通である。



すべて音階はその第一音を主音と稱し、これによつて其音階の名稱を定める。主音がハなるときはハ調、ニなるときはニ調といふが如きである。いまハを主音として音階を構成すると次の如きものが出来る。



この音階は第三音と第四音、第七音と第八音に半音を有し、他はすべて全音によつて出来てゐる

から長音階の形式と一致してをる。故にこれをハ長調と稱する。

ハ以外の音を主音として長音階を構成するには、すべて嬰變を以て全音半音の位置を長音階の形式に一致するやうにしなければならぬ。たとへばトを主音として長音階を構成する時は、へを半音上げなければならず、へを主音として長音階を構成する時にはロを半音下げなければならぬ。即ち次の如くである。



以上の如く音階を構成するために用ひた嬰變記號は、一つ或は數個をまとめて、譜表の初め、音部記號の次に記し、その音階が何調であるかを知らしめる。これを調記號と稱へる。此場合に用ひられた嬰變記號は樂曲全體の同名の音に其效力

を及ぼすものである。故にその曲の途中に於て本位音に復せしめようとする場合には、その音に本位記號を附さなければならぬ。

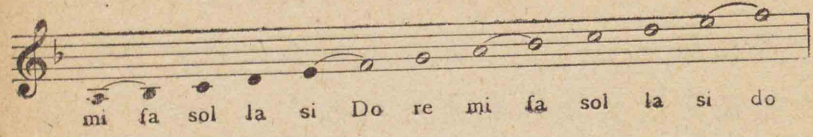


ハ長調以外の長調と其階名

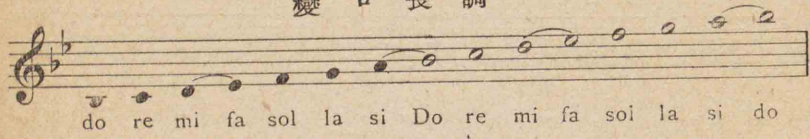
ハ長調以外の長調は、嬰種、變種とも各七種づつあるが、次には各三種づつを掲げることとする。



長



變 口 長 調



變 木 長 調

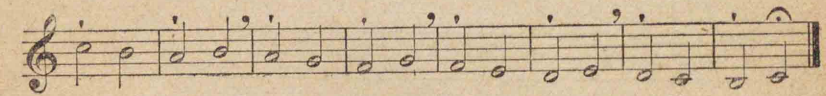
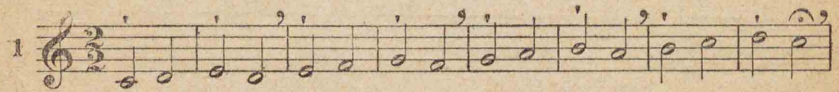


# 音 程 練 習

長 音 階



二 度 音 程



5

6

7

三度音程

長 短 短 長 長 短 短

8

9



10 









11 

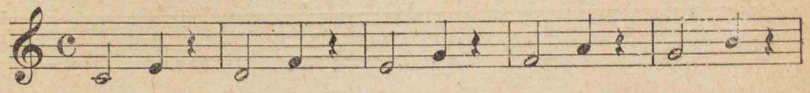





12 






13 





四度音程

完全 完全 完全 增 完全 完全 完全



14 







15

16

昭和十七年四月十日印刷  
昭和十七年四月十四日發行

實業音樂教本 壹	著作權 所有	定價 金三十拾七錢
----------	-----------	--------------

著 者 小 松 耕 輔

發 行 者 東京市麴町區飯田町二丁目二十番地  
中等學校教科書株式會社  
代表者 山 本 慶 治

印 刷 者 東京市神田區小川町二丁目十二番地  
株式會社 秀 英 社  
(東東4123) 代表者 西川 喜右衛門

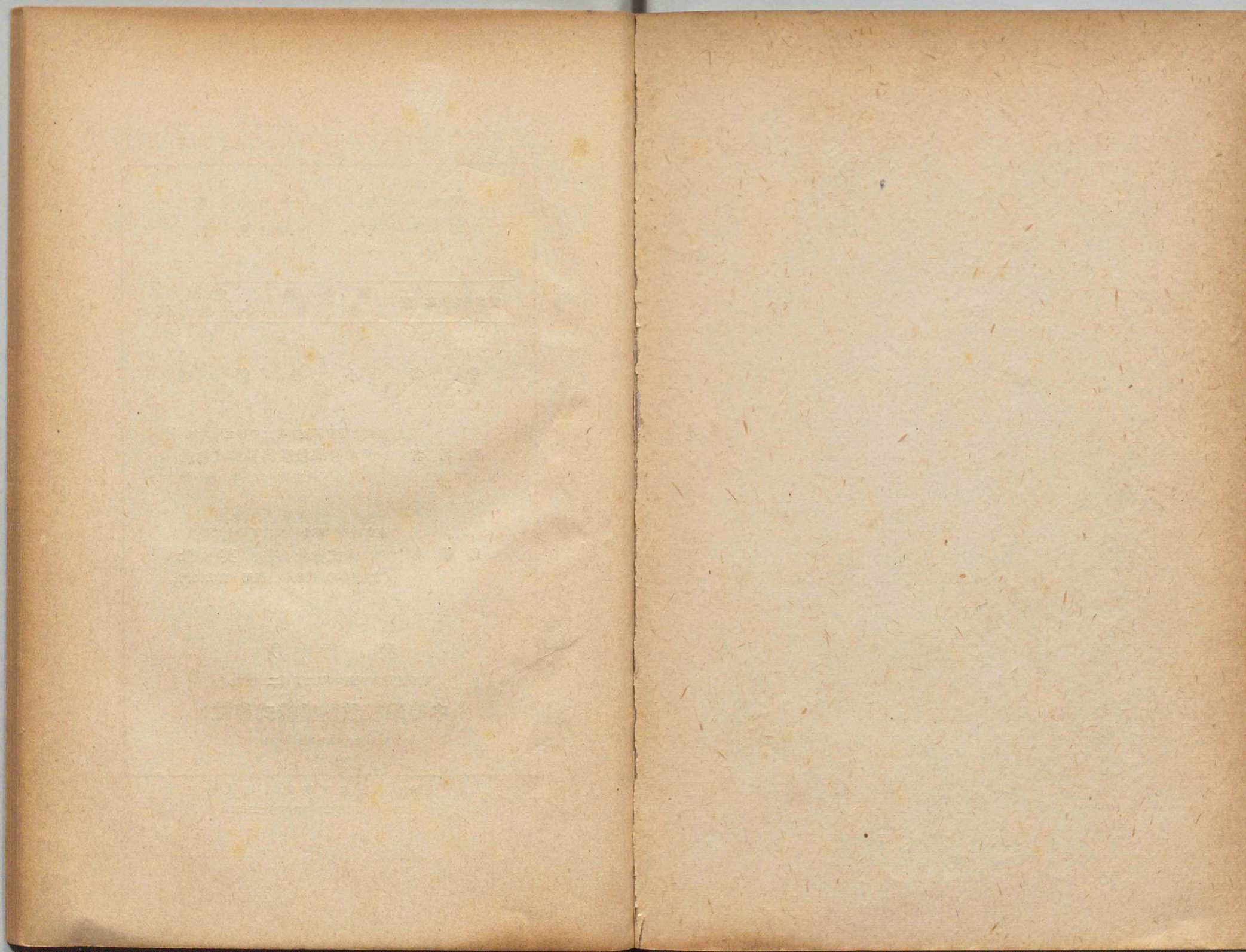
發 行 所

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地  
**中等學校教科書株式會社**

日本出版文化協會會員番號117522

配給元 日本出版配給株式會社  
東京市神田區淡路町二丁目九

(略名) 目黒小松實音樂



広島大学図書

0130449435

